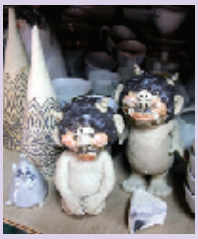
「鉄を熱するでしょう。ほうら曲がった」山口氏（右）左はニューフェイス

環人会ツアーvol.4

「高島ツアー」

「創造環境が未来をデザインする」

◆日　時／9月6日（土）10時～16時晴
◆場　所／高島市朽木・手仕事工房
　　『あけっぴろげ』訪問
◆集　合／ＪＲ安曇川駅
◆参加者数／14名
◆訪問先／「AKARIオブジェ手仕事工房」
　　山口耕一郎＆晴美宅、
　　朽木・小川（こかわ）榊始宅
◆住　所／高島市安曇川町南古賀966-3
　　TEL.0740（33）0179
　　http://www/eonet.ne.jp
◆案内人／青谷守、藤原久代、小島猛



「かあ～わいい」晴美氏作

高島に移り住んだ作家たち

「アケッピロゲってずいぶん大胆なネーミングやなあ」と言いながら、メンバーは集合しました。今回は初々しいニューフェースも一名参加し、なにやらウキウキ気分です。

山口耕一郎氏は、新進気鋭の鉄のオブジェ作家。晴美さんは、愛らしい表情が特徴の陶芸家。仕事場を見学しました。

ここ、高島市安曇川町南古賀は、若手作家の拠点になりつつあります。木工芸、染色、陶芸、鉄工芸、ガラス工芸など18のアトリエが集積しています。

「繊細な魚のオブジェ」耕一郎作

「和ろうそくの燭台」耕一郎作

「お茶目なおかめさん」晴美作

「ナア～となきそうな猫」晴美作

ユニークなのは「アトリエを開放しよう」と始まった『あけっぴろげ』。期間限定で開放可能なアトリエに限定されるものの、"製作現場"が見れるとあって「来場者数は右肩上がり」（山口氏談）。

作家は孤独を好むと思いがちですが、さにあらん。あけっぴろげの作家たちは、地域の事や将来設計や子どもたちの教育にいたるまで、ものづくりに負けないくらいの情熱と根気と仲のよさでコミュニティをつくっているのです。

「創作意欲をかきたてる地域つくり」が彼らの課題なのでしょう。

山口氏を紹介する青谷氏（中央）と藤原氏（右）

のどかな農村のたたずまいがすぐそこに

「えっ?!ここが入り口?」榊氏宅訪問

農的生活を満喫

朽木・小川（こかわ）に移動しました。榊さんがお待ちかねです。彼は、映画プロデューサーの経験を持つ写真家です。京都と朽木の二居住生活です。妻子はそれぞれ生活拠点を持ち、ここは彼らが安息の場（？）として週末を過ごします。

榊氏は、「農的生活」を始めんと、稲作や趣味の草刈に励みます。彼の写真はポストカードとして販売もされています。ファインダーに納められた人々のやわらかい笑顔が印象的です。

「自然の中に暮らす人の営みに興味があります」（榊氏談）。

都会の人を魅了する田舎暮らし

今回の現場研修では『田舎の不便さを、楽しめる都会人』の存在を教えてもらいました。

そういえば、「夏は暑いの、冬は寒いの、雪が降るわ、草は生えるわ…」と、大自然に不平不満を言っていた、私…。反省です。

ほおずきがインテリアに

薪ストーブ

枯れ枝もお部屋飾りに

都会のセンスが光る照明

風を取り入れ、薪ストーブで暖をとる。暮らしは工夫次第ですね。田舎のいいとこ、発信しましょう。

記念撮影「はいニャ～ゴ」榊氏（右から5人目）と参加者一同